



平成10年3月18日  
日本原子力発電株式会社

## 敦賀発電所1号機の第25回定期検査開始について

当社、敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉：定格出力35万7千キロワット）は、明日3月19日から約4ヶ月の予定で第25回定期検査を実施いたします。

定期検査を実施する主な設備は、次のとおりです。

- (1) 原子炉本体
- (2) 原子炉冷却系統設備
- (3) 計測制御系統設備
- (4) 燃料設備
- (5) 放射線管理設備
- (6) 廃棄設備
- (7) 原子炉格納施設
- (8) 蒸気タービン
- (9) 付帯設備

### 1. 主要特別工事等

- (1) 低圧タービン内部車室取替工事（図－1参照）  
低圧タービンの内部車室については、予防保全の観点から、耐浸食性に優れた材料を用いた内部車室に取り替える。
- (2) 主発電機固定子巻線取替工事（図－2参照）  
主発電機の固定子巻線の絶縁の信頼性維持の観点から、固定子巻線を取り替える。
- (3) 原子炉圧力容器内のシュラウド点検工事（添付図－3参照）  
シュラウド（\*1）の溶接部について、水中テレビカメラによる目視点検を行い、健全性を確認する。
- (4) 原子炉圧力容器供用期間中検査（図－3参照）  
原子炉圧力容器の溶接部等について、超音波探傷試験により健全性を確認する。
- (5) 格納容器冷却系・原子炉停止時冷却系接続工事（図－4参照）  
アクシデントマネジメント [AM]（\*2）対策として、原子炉への注水手段の多様化を図るため、現有設備の格納容器冷却系を利用して原子炉に注水できるように、格納容器冷却系と原子炉停止時冷却系との間に連絡配管を設置する。  
また、定期安全レビュー [PSR]（\*3）としての信頼性向上を図るために、格納容器

冷却系熱交換器を原子炉停止時の冷却として利用できるよう格納容器冷却系と原子炉停止時冷却系との間に連絡配管を設置するとともに、これに合わせて、格納容器冷却系熱交換器を取り替える。

## 2. 燃料取替計画

燃料集合体全数308体のうち、54体（うち52体は新燃料集合体で全て高燃焼度燃料集合体）を取り替える予定です。

## 3. 運転再開予定

原子炉起動・臨界	平成10年6月下旬
発電再開予定（調整運転開始）	平成10年6月下旬
定期検査終了予定（定常運転再開）	平成10年7月下旬

### 【用語解説】

\* シュラウド；

原子炉圧力容器内において、原子炉冷却水の流路を形成するため、炉心の外周部に設置された円筒形のステンレス製構造物

\* アクシデントマネジメント；

シビアアクシデントに至る恐れがある事象が万一発生しても、それがシビアアクシデントに拡大するのを防止するため、もしくは万が一シビアアクシデントに拡大した場合にも、その影響を緩和するためにとられる措置をアクシデントマネジメントという。

\* 定期安全レビュー；

発電所の安全性を運転経験および最新の技術的知見に基づき包括的に評価し、安全性、信頼性のより一層の向上を図る目的で事業者の自主保安として定期的にレビューを行うものである。

以上

---

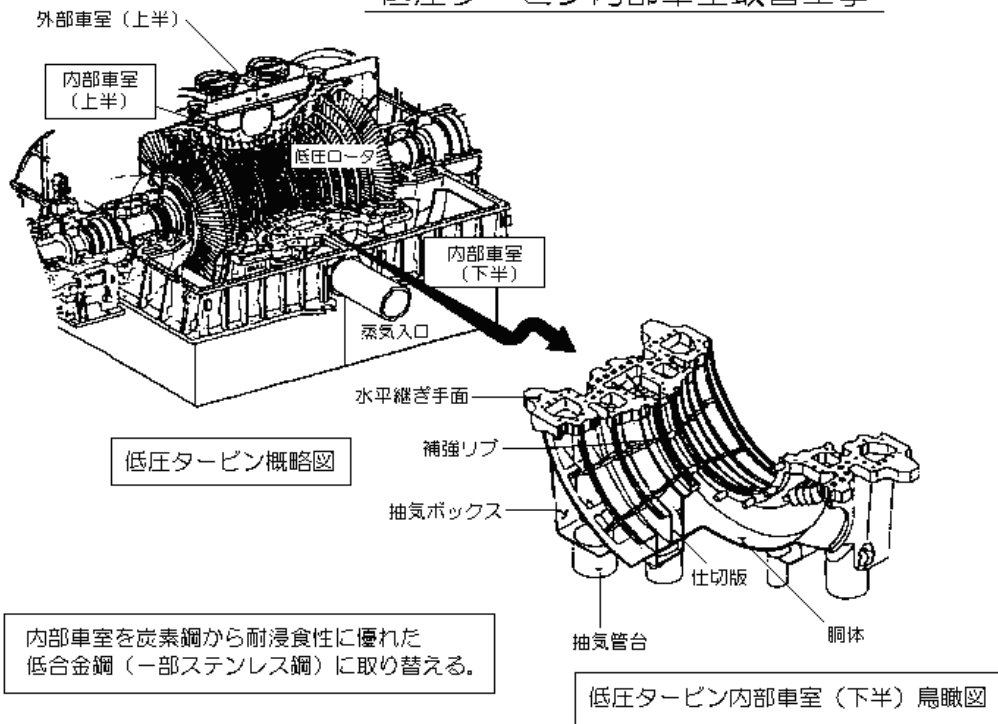
図－1 低圧タービン内部車室取替工事

図－2 主発電機固定子巻線取替工事

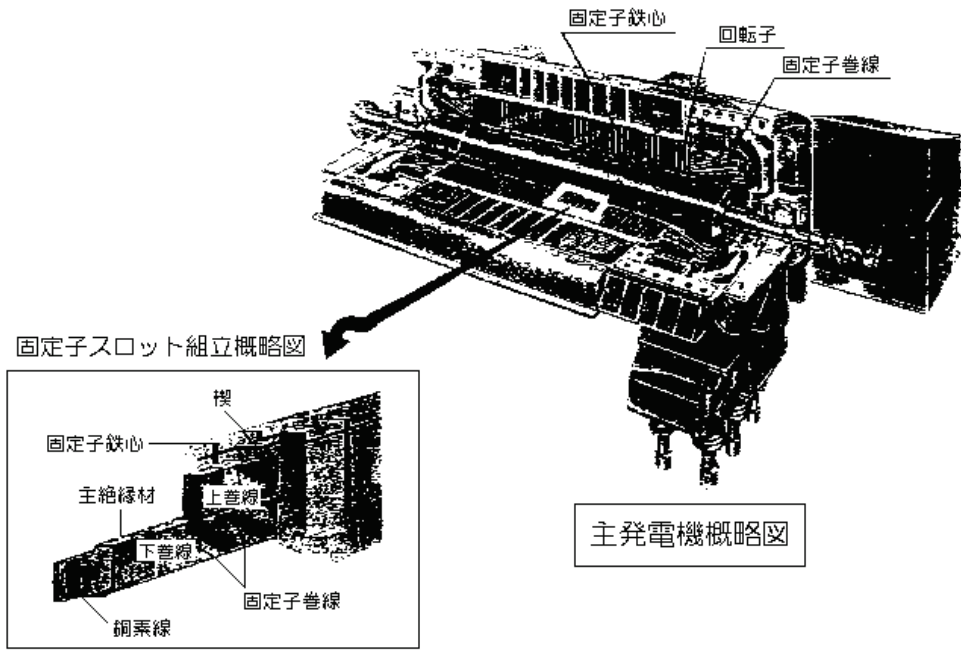
図－3 原子炉圧力容器供用期間中検査・原子炉圧力容器シュラウド点検工事

図－4 格納容器冷却系・原子炉停止時冷却系接続工事

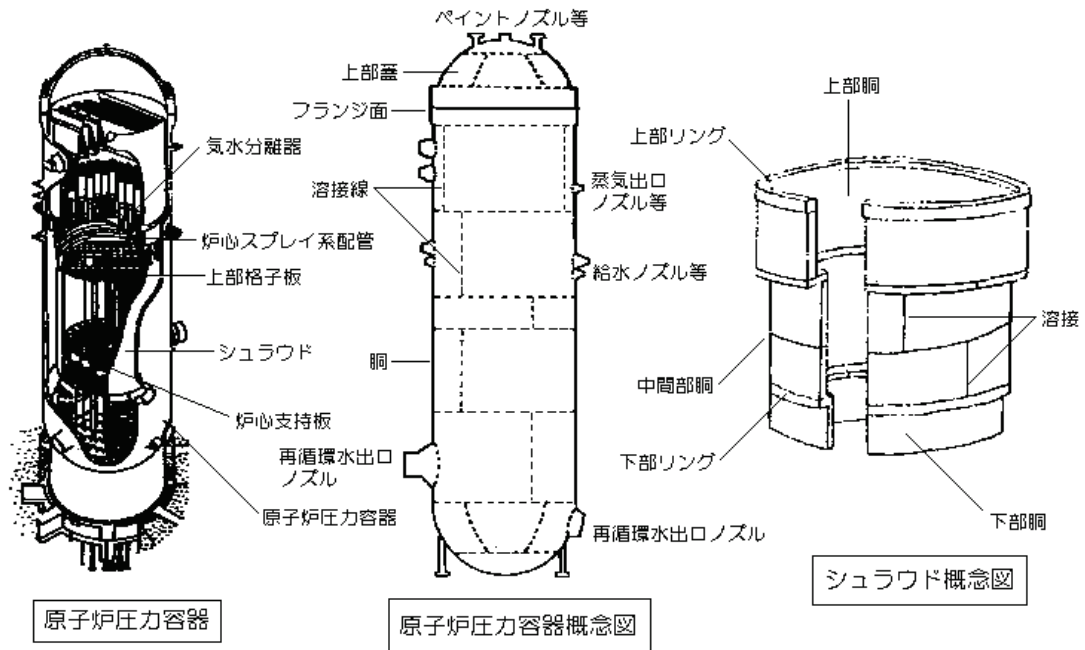
### 低圧タービン内部車室取替工事



# 主発電機固定子巻線取替工事



原子炉圧力容器供用期間中検査  
 原子炉圧力容器シュラウド点検工事



格納容器冷却系・原子炉停止時冷却系接続工事

